

聴覚障害者の声

手話通訳を利用

手話通訳によって話したいことをきちんと伝えられ、安心して病院を受診したり、保護者会に出たり、日常生活に必要なコミュニケーションがとれます。また、会議や講演会でも皆さんと同時に内容を知ることができます。

要約筆記を利用

補聴器を使っても聞こえない・聞き取りにくいことがあります。人と話すことが難しくなりがちです。聴覚障害者には、手話が使えない人もいます。要約筆記を利用することにより、会話等の言葉が文字になるので安心できます。

意思疎通支援者の声

手話通訳者

手話通訳者は、手話の分からない人へ手話で表現された内容を伝え、聞こえない人へ音声の内容を伝えるだけではありません。聴覚障害者が差別を感じることなく、社会の一員として暮らすための一番の理解者でもあると思います。

要約筆記者

要約筆記者は、聞こえない人のことを知り、その人にとって分かる・伝わる書き方で情報を伝えます。速く、正確に、読みやすく伝えることによって、障害のあるなしに関わらず共に幸せに生きることができると思います。

手話奉仕員って？

手話奉仕員は、相手の手話が理解でき、身近な聴覚障害者と手話による日常会話が可能です。

このため、手話ボランティアとして福祉行事やイベントなどで活躍することができます。

手話通訳者って？

手話通訳者は、日常生活に関わる様々な場での手話通訳が可能です。

このため、聴覚障害者や行事の主催者等からの依頼に応じて、学校や病院、役所における手続きなどに同行し、通訳業務にあたるすることができます。

要約筆記者って？

要約筆記者は、相手の話（音声）を要約して書くことで、内容を正しく的確に伝えることが可能です。

このため、聴覚障害者や行事の主催者等からの依頼に応じて、学校や病院、役所における手続きなどに同行し、要約筆記業務にあたることができます。

耳の聞こえない人、聞こえにくい人、手話習得の困難な中途失聴者・難聴者にとって、重要なコミュニケーション手段のひとつです。要約筆記には、手書きとパソコンの2種類があります。

盲ろう者向け通訳・介助員って？

視覚と聴覚の両方に障害のある人を盲ろう者といいます。盲ろう者向け通訳・介助員は、触手話（相手の手に触れて手話を読み取る方法）や指点字（指を点字タイプライターのキーに見立てて、左右の人差し指から薬指までの6指に直接打つ方法）等によるコミュニケーションに加え、ガイドヘルプ（視覚障害者に付き添って歩行の介助や誘導をする活動）を行うことが可能です。

このため、盲ろう者からの依頼に応じて、病院や役所における手続きなどに同行し、通訳・介助業務にあたることができます。



2022年のいちご一会とちぎ大会でも手話や要約筆記を活かして
全国から訪れる選手と交流してほしいま～

いちご一会とちぎ大会

第22回 全国障害者スポーツ大会 夢を感動へ。感動を未来へ。2022

